

2018年11月5日

### 朝礼の話 (2018年11月)

皆さんお早うございます。このところ朝晩の気温も随分と下がってきました。街の景色も段々と晩秋の気候らしくなってきました。今週水曜日（7日）は二十四節気では立冬となります。日に日に市内の街路樹も色づきを増していき、秋の深まりを感じられるようになっていきます。市内の紅葉の名所の見ごろは20日過ぎからといわれています。仕事の合間にちょっと手を休めて身の回りの様々な風景の中に季節の移ろいを感じて楽しむのもいいでしょう。今年もあと二ヶ月を残すのみとなりました。公私とも遣り残していることがないか自分の廻りを点検し、出来ることから一つずつ片付けいきましょう。

明日（6日）米国では中間選挙の投開票が行われます。2020年11月の大統領選挙で再選を目指すトランプ政権への賛否を示す選挙となります。最大の焦点は全議席が改選となる下院で与党共和党が過半数を維持できるかどうかです。野党民主党は米国の分断をあおるトランプ大統領への反発を追い風に反トランプ攻勢を強めています。与党共和党は党内反トランプ派も議席維持のため大統領との共闘姿勢を強め巻き返しに全力を挙げています。選挙結果は予断を許さない状況にあるといわれています。米国の連邦議会選挙は2年ごとに実施され、4年ごとの大統領選挙の中間の年に実施される選挙を中間選挙と呼んでいます。任期2年の下院は全議席（435議席）、任期6年の上院は3分の1が改選の対象となります。投票日は大統領選挙と同じく11月の第1月曜日の次の火曜日と定められています。議会や各議員への評価だけでなく現大統領への信任投票として、2年後の大統領選挙の前哨戦と位置づけられています。事前の予測では下院は野党民主党が優位を保っているといわれています。上院は与党共和党が過半数を維持する可能性が高いとされています。全100議席のうち今回改選される議席は35議席であり、そのうち26議席を民主党が占めています。この中で民主現職候補の議席を共和候補が奪うと見られている州選挙区がかなりあり、結果として共和党が議席を増やす可能性が高いと見られています。この中間選挙の結果はトランプ大統領の今後の政権運営を左右するといえます。連邦議会は予算編成や法律制定の権限を持っています。政権（政府）には立法権はなく政策の遂行には議会の協力が必要となります。仮に与党共和党が上下院どちらかで過半数を失えば、トランプ政権や共和党は民主党の意向を反映しなければ予算や法律を通せなくなり、民主党との調整、妥協を迫られることとなります。トランプ氏は大統領就任後、オバマ前民主党政権の施策をことごとく否定し覆してきました。オバマケアの改廃やメキシコ国境の壁建設に象徴される不法移民対策などの内政問題やTPP離脱、パリ協定離脱、イラン核合意離脱などの多くの外交、通商課題、大統領自身に対するロシア疑惑などトランプ政権は内外に様々な問題、課題をかかえています。議会多数派を野党民主党に奪われた場合、外交でより強硬に米国第一主義を打ち出す可能性もあるとみられています。今回の中間選挙の結果はトランプ政権の行方を方向付ける重要な政治イベントとなります。

以上